

ふじの
くに

考古通信

Information on the archaeology in Shizuoka

2012.10
Vol. 3

特集 常設展示「古代からの贈り物」

旧石器・縄文時代

狩猟採集民が駆けめぐった時代

弥生時代

お米作りと弥生文化

古墳時代

古墳が造られた時代

奈良・平安時代

古代国家の成立と祈りの源流

鎌倉～戦国時代

中世の大名・城主と庶民の暮らし



静岡県埋蔵文化財センター



常設展示がオープンしました

7月7日土曜日、静岡市駿河区谷田にある県立中央図書館3階展示室において当センターの常設展示「古代からの贈り物～発掘調査から知る静岡県の歴史～」がオープンしました。

常設展示「古代からの贈り物～発掘調査から知る静岡県の歴史～」は、静岡県が発掘調査した出土品を時代別に陳列し、旧石器時代から戦国時代までの静岡県内の歴史について写真や文字パネルを交えて解説したものです。

展示開始に先立って行われたオープニングセレモニーでは県教育委員会安倍教育長、同柳田文化財保護課長、静岡県立中央図書館谷野館長、県教育委員会加藤教育委員出席のもと、当センター勝田順也所長が開会のあいさつをのべた後、テープカットを行い、早くから会場に詰

め掛けていただいた来場者の皆さんが続々と展示室に入場されました。

オープン当日は、職員による各時代の展示解説を数回に分けて行い、来場された方の質問にもお答えしました。

当センターの主な業務は埋蔵文化財の発掘調査ですが、その成果を県民の皆さんに広く公開することもまた当センターの重要な責務のひとつです。

常設展示は今後、展示品の入れ替えを行い、バージョンアップをしながら、出土品を広く公開する予定です。

県民共有の歴史的文化的資産である出

土品をひとりでも多くの県民の皆様に見ていただくことを通じて、地域固有の文化に誇りと愛着をもっていただくと共に、文化財の価値が未来につないでいけるよう、今後も様々な工夫をまいります。

常設展 古代からの贈り物

～発掘調査から知る静岡の歴史～

- 会場 静岡県立中央図書館 3階展示室
〒422-8002 静岡市駿河区谷田 53-1
- 閲覧時間 午前9時～午後5時
(図書館の休館日を除く)
- 入場料 無料

旧石器・
縄文時代

狩猟採集民が駆けめぐった時代

旧石器時代～縄文時代は本格的な農耕が始まる以前で、動植物を求めて、人々が大地を駆けめぐっていた時代です。厳しい環境に適応しながら、自然とともにたくましく生きた人々の生活をのぞいてみましょう。

静岡県が誇る旧石器時代の資料

日本の歴史はどこまでさかのぼるのか、学界でも論争になっていることですが、年代がはっきりしているもので、もっとも古いのは、静岡県の東部で3万年前の地層から出土した石器です。今回の展示では日本最古級の石器の一部を展示しています。

2万7千年前の地層で検出した旧石器時代の落とし穴は、世界中を見渡しても、なぜか静岡県に集中して発見されるもので、非常に珍しい発見です。今回の展示では、その断面のはぎ取りを展示しています。

また、礫群と呼ばれる旧石器時代の調理跡は、現地で出土したものを地面ごと切り取って持ち帰ったものを展示しています。

落とし穴に調理跡、いずれも遺跡を切り取って持ち帰ったものです。本物だけがもつ迫力をお楽しみください。



さまざまな縄文土器

静岡県東部では、関東地方の縄文土器、長野県の縄文土器、さらには関西系の縄文土器などが出土しており、静岡県が様々な文化の交流地であったことを示しています。



多種多様な縄文土器

人類が初めて化学変化を起こして作った道具、それが土器です。今回展示した縄文時代草創期の土器は、世界的にも最も古い土器です。

さて、縄文土器といえば、複雑な文様のある派手な土器という印象がありますが、どんなに複雑な文様でも決まったルールのもとに描かれています。そして、このルールは時期や地域によって決まっ

ています。縄文土器の文様は、単なる飾りではなく、縄文人が属していた集団や、地域社会の象徴だったのです。

展示してある縄文土器の文様をじっくり観察してみてください。粘土ひもを貼り付けたり、線を引いたりして作ったパターンが繰り返されて文様が構成されていることが読み取れてきます。それがわかれば、あなたも考古学者の第一歩を踏み出したことになります。



旧石器時代落とし穴のはぎ取り

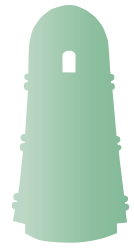
新東名高速道路の建設に伴う発掘調査で検出した2万7千年前の落とし穴の断面です。旧石器時代の落とし穴は、世界的に見ても静岡県で集中して発見されます。



旧石器時代の調理跡

東名高速道路の遠州豊田パーキングエリアを作る前の発掘調査で出土した、焼け礫の集合で、調理跡と考えられています。本物を出土した状態のまま持ち帰って展示しています。

お米作りと弥生文化



静岡のお米作りのルーツはいつでしょう？
 どうやってお米を作って食べていたのでしょうか？
 その疑問の答えは展示のなかにあります。

お米作りのはじまり

私たちが毎日食べているお米は、いまや主食として毎日の生活に欠かせないものです。そのお米が静岡に伝わってきたのは、いったい、いつのことだったのでしょうか？実は、静岡でお米作りが始まったのは、弥生時代の中頃とされています。

お米とともに伝わってきたもの

伝わってきたのは、^{もみ} 籾やお米作りの技術だけではなく、お米作りに必要なたくさんの道具やお祭りとともに伝わってきたのです。弥生土器や田んぼを起す^{くわ} 鋤や^{すき} 鋤、木の道具をつくるための石器、銅鐸などの^{せいどうき} 青銅器も一緒に入ってきました。

食料としてのお米

お米は保存が効き、常に安定した食料を確保できる利点があります。しかし気候の変動によっては豊作の年も不作の年もあったでしょう。少しでもお米の収穫を増やすために、田んぼはまたたく間に平野に広がっていきました。

ムラの形成

当時のお米作りは、機械もなく、たいへんな重労働でしたから、人々は集団となって集落をつくり、やがて大きな規模のムラになっていきました。

弥生土器の西東

そのなかから誕生した地域独特の弥生

土器は、似ているように見えますが、西と東とではだいぶ違います。

道具の改良

田んぼを起す鋤や鋤、田下駄も、その地域の^{どじょう} 土壌に合った形に改良されていきます。苦勞して収穫したお米は^{うす} 白や^{きね} 杵で^{だっこく} 脱穀されて、ようやく食料となるのです。その収穫の恵みを祝うお祭りも盛んに行われたことでしょう。

先人たちの知恵と工夫

私たちの先人がお米作りのために作ってきた道具には知恵と工夫がたくさん詰まっています。現代の私たちが見習いたいリサイクルも上手にしています。展示のなかでそのヒントを探してみてください。



銅鐸の出土状況

磐田市・西の谷遺跡では、発掘調査によって銅鐸が出土しています。会場では、銅鐸が出土した時の様子が精密に再現されています。

古墳時代

古墳が造られた時代

古墳の造営を通じて日本各地が政治的、文化的に畿内王権を中心にまとまり始めました。その背景には新しい技術や文化がもたらされたことによる人々の生活・文化の変化がありました。



文化の融合

古墳が造られ始めるころ、日本各地では地域色豊かだった土器の形や作り方が近畿地方の土器に類似するとともに、各地の土器が現在の奈良県を中心とする「畿内」に集まるようになります。

静岡県でも弥生時代には大きな違いを見せていた西部（遠江）と東部（駿河・伊豆）の土器が類似してきます。

展示では、遠江と駿河の土器を並べました。弥生時代の土器と比較してみましょう！

古墳の成立

古墳とはなにか？なかなか答えが出ない課題です。それは弥生時代にも大型の墳丘墓が造られているからです。弥生時代の墳丘墓と古墳の違いは何か？

その一つの答えとしては、古墳の成立にあたっては、日本各地で行われていた葬儀で使う祭りの道具を取り入れて、葺石や埴輪をもつ前方後円墳という大型古墳を造り出したことでしょう。



古墳時代の人々が好んだ須恵器

湖西市で操業された湖西古窯群で生産された須恵器のうち、緑色をした自然釉が付着した長頸壺（写真左）やフラスコ瓶（写真右）は、静岡の古墳時代の人たちだけでなく、関東や東北地方の人たちに好まれました。

「今来伎人」（渡来人）の活躍

古墳時代に中国大陸や朝鮮半島から渡来してきた人たちは、それまでになかった技術を有する集団でした。

静岡県内では渡来人の痕跡はなかなか発見できませんが、浜松市浜北区にある静岡県指定史跡二本ヶ谷積石塚群は渡来人と関係する古墳と想定されています。

古墳時代人好みはいかが！？

古墳時代中頃に窯で土器を焼く技術がもたらされ、湖西市の湖西古窯群をはじめとして藤枝市衣原古窯群・入野高岸古窯群などで操業が行われます。

このうち湖西古窯群の須恵器は関東・東北まで流通しており、「古墳時代人好み」の器だったことがわかります。

しずおかに馬がやってきた！

日本列島にはもともと馬がいませんでしたが、朝鮮半島から古墳時代中頃に馬がやってきました。

静岡は非常に馬具の出土数が多いことから馬の飼育が行われ、古墳時代後期（6



私たちは鍛冶職人

静岡県内で初出土の沼津市の場3号墳の鉄鐸（鉄製のベル）。長さ5cmと小さな遺物ですが、古墳時代の墓には自分たちの職業を誇示する副葬品を納めました。

～7世紀）には騎馬による軍事集団が存在した可能性も考えられています。

手工業生産コンビナート

沼津市的場3号墳では鍛冶工人在職の職業を表すために所持したと考えられている、鉄鐸（鉄製のベル）が県内で初めて出土しています。

駿河東部地域はこの他にも鉄針や馬具が多く出土するなど、鍛冶、服飾生産や馬匹生産などさまざまな手工業生産が行われており、工業地帯（コンビナート）であったと想定できます。



私の好みにも合う！？

古墳時代の東国の人たちに好まれた須恵器に見入る現代人。私の好みにあう！？あわない！？あなたはどっち？？？来て見て確認しよう！

古代国家の成立と祈りの源流

律令体制の完成・仏教の興隆など、東アジア文化圏において「日本」が国家として成立、展開した時代における静岡県域の様相を紹介します。



東アジアの情勢

6世紀末、中国大陸では南北朝の混乱を隋が統一し、その隋を倒した唐が強大な国家を建設します。唐は、中央集権や法律に基づく国家統治を行い、国家は安定し、繁栄します。

また、唐は朝鮮半島や日本列島への関与を深めようとしたため、日本でも中央集権的な国家統一への気運が高まります。

律令国家の成立

701（大宝元）年、体系的な法典『大宝律令』が完成します。中央集権の政治が整ってくると、710（和銅3）年には政治・文化の中心地として大規模な都城・平城京に都が遷されました。

日本全国には66か国が設置され、各国には郡が設置されました。静岡県でも「遠江国」「駿河国」「伊豆国」が置かれ、各国には「引佐郡」「周智郡」などの郡が設置されました。

奈良・平安時代には貨幣が発行され、「和同開珎」など12種類の貨幣が鋳造されました。展示されているのは奈良時代の貨幣「神功開宝」です。

役人の必須アイテム：文房具

各地の国や郡には地方行政を司る役所が置かれ、事務処理が行われました。硯・水滴・銅印などは役所で事務を行うために必要な文房具類でした。

今回、硯は3種類の形態のものを展示しています。奈良時代から平安時代にかけてどのような硯が使われていたのか、ぜひ会場で実物を確かめてみて下さい。

祭の形成

日本各地では律令制度に基づく大祓などの諸儀式が行われました。人々は、人間に災いをもたらすとされた「穢れ」を人形や馬形、人面墨画土器などにうつして災いを取り除こうとしました。

仏教の興隆

仏教は6世紀中頃、朝鮮半島から日本に伝えられました。

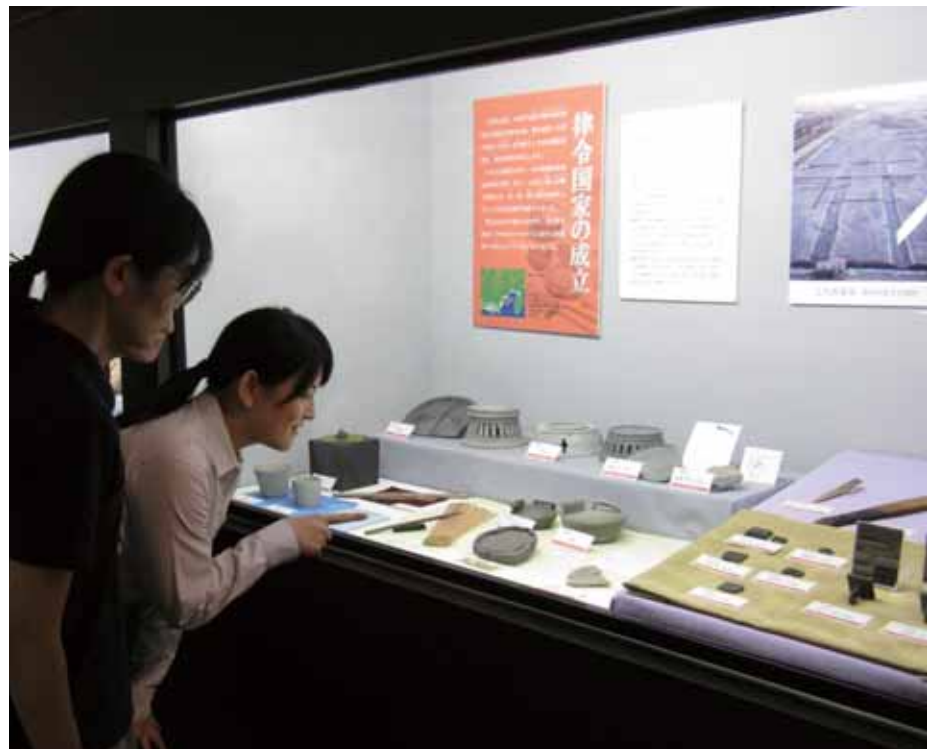
奈良時代になると、社会の不安を仏教の力によっておさめるため、仏教は国家に保護され、栄えました。741（天平13）年、聖武天皇により国分寺建立の詔が出され、各国に国分寺・国分尼寺が造営されました。

奈良時代の大寺院は平城京などの都市



土器に描かれた人の顔が見えるかな？

部に集中していたのに対し、平安時代には山地にも寺院が建立されました。



古代の硯ってどんな形？？

鎌倉～
戦国時代

中世の大名・城主と庶民の暮らし

中世、とりわけ戦国時代という戦乱の世にあって、人々はそれぞれの立場で生活していました。県内各地で発掘された出土品は必ずしも記録に残らない、当時の人々の暮らしぶりをうかがう資料となります。

中世の人々の暮らし

大名や城主といった上級武士たちは喫茶や芸能などを楽しみ、また宴会に代表されるさまざまな武家儀礼を行っていました。一方、一般庶民は質素ながら様々な道具を使って日常生活を送っていたことが、出土品の様子から知ることができます。

大名・城主の暮らし

室町～戦国時代にかけて、連歌や茶の湯といった室内芸能の発達により、会場となる大名や城主の座敷は豪華な調度品で飾られるようになります。これら座敷飾りは武家儀礼の指南書（『君台観左右帳記』など）にしたがって行われていました。

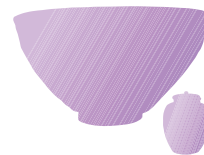
茶の湯に使われる道具（天目茶碗・茶入等）は唐物（中国製の高級品）が特に珍重されましたが、普段使いには唐物をコピーした瀬戸・美濃産などの国産品が用いられていたようです。

大名・城主の食生活

大名・城主は頻繁に宴会を催していましたが、宴会は賓客をもてなし、また一族・家臣らとの絆を深めるための大事な催しでした。宴会では折敷（白木のお膳）に載せられた「かわらけ」によって配膳され、宴会が進むと膳ごと次の料理に取り替えられます。宴会の料理は、駿府城内遺跡で食器などと同時に出土した動物や魚の骨にみられるように、タイ、ブリ、カツオ、マグロ、イノシシといった食材が使用されていました。

庶民の暮らし

上級武士たちが座敷のある板・畳敷きの住まいに住んでいたのに対し、庶民たちの住まいは基本的に土間造りで、その上に筵やスノコが敷いて生活していました。土間はかまどが設けられて台所として使われますが、様々な作業場としても機能していました。居間には囲炉裏が



置かれることもありましたが、囲炉裏は照明具や暖房具であったと同時に、土鍋などを火にかける調理場でもあったようです。

庶民の生活道具

生活道具は現代の道具と似るものが多くあり、現代の生活様式の源流がこの時代にあったともいえるかもしれません。食器は簡素なつくりの漆器の椀や皿が主体でした。比較的高価な釉薬の掛かった陶器類も使用されますが、多くはなかったようです。煮炊具は内耳鍋とよばれる土鍋が多く使用されていました。杓文字や曲物（容器）など、台所で使用される道具には、木で作られたものが多いことも注目されます。



宴会で使用された「かわらけ」

駿府城内遺跡で多量に出土した「かわらけ」は、宴会の席で使用されたと考えられます。



中世の木製生活道具

中世の人々は武士も庶民も、折敷（お膳）や食器、容器といった、木製の生活道具をあらゆる場面で使っていました。

Topics 堂ヶ谷遺跡の出土品。全国を巡回展示中！

牧ノ原市・堂ヶ谷遺跡の出土品が、現在文化庁主催の「発掘された日本列島」展に出品され、全国の展示会場を巡回しています。

会場では、和鏡や銅製経筒、数多くの腰刀、折り曲げられた大刀など、経塚から発見された数多くの品々を展示しています。

近年新たに発見され、話題となった全国各地の遺跡の貴重な出土品とともに、この機会にぜひご覧下さい。



「発掘された日本列島 2012」展示会場

- 東京都江戸東京博物館
平成 24 年 6 月 12 日～7 月 29 日
- 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館
平成 24 年 8 月 8 日～9 月 17 日
- 藤枝市郷土博物館・文学館
平成 24 年 9 月 28 日～11 月 6 日
- 堺市博物館
平成 24 年 11 月 17 日～12 月 24 日
- 鳥取県立博物館
平成 25 年 1 月 12 日～2 月 24 日

Information 11 月 4 日に遺跡調査報告会を開催します。

11 月 4 日、県立中央図書館にて、遺跡調査報告会「ふじのくにの原像をさぐる」を開催します。

今回は、弥生時代の大集落が発見された「将監名遺跡」、多くの木製品が出土した「寺家前遺跡」、多くの人骨が発見された「天王ヶ谷横穴群」、江戸城に使用する石を切り出した「弁慶嵐石丁場遺跡」の 4 遺跡の調査成果を報告します。

また、報告会の当日には、本号で特集した常設展「古代からの贈り物」の展示解説も実施します。

秋の 1 日、最新の発掘調査成果と多彩な展示品から、歴史のロマンを感じてみてはいかがでしょうか。



浜松市・将監名遺跡



藤枝市・寺家前遺跡



森町・天王ヶ谷横穴群



熱海市・弁慶嵐石丁場遺跡

ふじのくに文化の丘フェスタ

遺跡調査報告会「ふじのくにの原像をさぐる」

日時 平成 24 年 11 月 4 日（日） 13 時 20 分～16 時

会場 静岡県立中央図書館 講堂

報告遺跡 将監名遺跡（浜松市）、寺家前遺跡（藤枝市）、天王ヶ谷横穴群（森町）、弁慶嵐石丁場遺跡（熱海市）

その他 事前申込み不要。入場無料。
当日は常設展の展示解説も実施します。

編集後記

本号では、県立中央図書館で開催中の常設展「古代からの贈り物」を特集しました。現在静岡県では、新東名高速道路の開通を機に、「内陸フロンティア構想」が進められています。今回の展示会でも内陸部で発見されたものが多く展示されています。これらの出土品は、多難を乗り越えて、新たな土地を切り開いていった先人たちの足跡でもあります。実物に触れながら、郷土の先人たちの力強く勇敢な姿を想像してみてください。

静岡県埋蔵文化財センター

Shizuoka Prefectural Archaeological Center

〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田 23-20

TEL : 054-262-4261 FAX : 054-262-4266

HP : <http://smaibun.jp/>

〈アクセス〉

◆静岡鉄道「県立美術館前」駅より 徒歩 10 分

◆JR「草薙」駅より 徒歩 20 分

◆JR「草薙」駅より「県立美術館駅」行バス

「フロムナード」停留所下車すぐ

静岡県埋蔵

検索

